

令和 2 年 6 月 25 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03596

研究課題名（和文）ジェンダーと国際政治 戦争・民主化・人権のダイナミクス

研究課題名（英文）Gender and International Politics: Political Dynamics of War, Democracy and Human Rights

研究代表者

竹中 千春（TAKENAKA, Chiharu）

立教大学・法学部・教授

研究者番号：40126115

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000 円

研究成果の概要（和文）：ジェンダーの視角から武力紛争、人道的介入・平和構築、人間の安全保障、NGOと市民社会のネットワークなどに関わる現象を取り上げ、国際政治のジェンダー・ダイナミクスに関する理論モデルを提示し、ジェンダー研究から切り込んだ国際政治論の構築を行った。とくに南アジアの地域研究に基礎をおき、国際政治・比較政治・ジェンダー研究を学際的に交差させ、他地域の事例との比較分析や同時代的な関連付けを行い、現地調査と事例分析を実施して理論構築を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

政治学の関連分野でもジェンダー分析が一定程度は導入されてきたが、古いジェンダー秩序や規範に基づく概念や理論仮説の影響力は強く残存している。しかし、1990年代以降ボスニア紛争などを機に「女性に対する暴力」といったジェンダー的な問題への関心が惹起され、たとえばアフガニスタンやカシミールなどの南アジアの武力紛争についてもジェンダー分析が提起された。本研究では、こうした現象と知的な展開を批判的に捉え直し、学術的な概念や理論仮説として構築した。

研究成果の概要（英文）：How could we analyze the various phenomena of International Politics and International Relations, utilizing the intellectual tools of Gender Studies? This is the prime quest of this project, and the researcher has been pursuing to fill the intellectual gap between the social demand for more understanding of the affairs from the gender perspective and the relative lack of reliable studies, especially in the field of political science. In order to tackle this agenda, the several case studies of armed conflicts in South Asia and other areas such as Bosnia-Herzegovina have been performed in order to make a new problematic, along with the critical examination of the theoretical frameworks in political science and area studies.

研究分野：国際関係論

キーワード：政治学 国際関係論 グローバル・イシュー ジェンダー



様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

1975 年の国際女性年以降、さらに冷戦後の時期には「女性に対する暴力 (violence against women)」概念や政策過程への女性参画政策が提起された。1995 年世界女性会議以降、ジェンダーをめぐる国際的規範や政策に画期的な変化が起こってきた。国際関係論・国際政治学の分野でも意欲的な研究が提起され、日本国際政治学会でもジェンダー分科会が設置され、『国際政治』第 161 号「ジェンダーの国際政治」(2010 年)が刊行され、研究代表者も「国際政治のジェンダー・ダイナミクス 戦争・民主化・女性解放」を寄稿した。先行研究や自身のジェンダー研究を踏みに、本研究では、女性の抱える格差状況、非民主的状況下の抑圧、戦争・内戦・政治的暴力の過程での女性の人権侵害などのイシューと並んで、女性トップリーダーの登場というイシューも注目されている。そうした展開を踏まえ、「国際政治のジェンダー・ダイナミクス」の分析を志した。

## 2. 研究の目的

現代世界のジェンダー現象に着目し、国際政治・比較政治の領域におけるジェンダー的な変動の特徴を分析し、体系的な理論仮説を提起することを試みた。そのため「ジェンダー化」と「ジェンダー・ダイナミクス」という鍵概念を用い、政治学とジェンダー研究を方法論的に架橋し、研究代表者の専門とする南アジアの事例を実証分析の中心に据えつつ、東アジア・イスラーム諸国・欧米諸国などの事例との比較を行い、以下の論点を析出した。(1)国際政治のジェンダー・ダイナミクス、(2)ジェンダー化された国家と国際秩序、(3)ジェンダー化された戦争と平和、(4)ジェンダー化された貧困と開発、(5)ジェンダー化された民主化と民主主義、(6)女性のアドヴォカシーとグローバルな市民的ネットワーク、である。その上で(1)～(6)の論点を統合して、「ジェンダーと国際政治」の体系的な議論の構築を試みた。

## 3. 研究の方法

「ジェンダーと国際政治」という課題について、(1)体系的な理論仮説の構築の作業、(2)理論仮説の基礎となる事例分析と比較分析の作業を、車の両輪のように進めた。(1)については、研究代表者のこれまでの研究を基礎に、新しい研究成果を吸収し、ジェンダー分析の鍵概念としての「ジェンダー化 (engendering/engendered)」、「ジェンダー・ダイナミクス (gender dynamics)」について検討し、ジェンダー分析と連携させながら政治学的な諸概念の再検討を行った。(2)については、研究代表者が専門とする南アジアを中心に、とくにカシミールとアッサムの武力紛争・紛争後についての調査を行い、ボスニア紛争やその他の武力紛争や紛争後の社会と比較し、理論仮説を導き、「ジェンダーと国際政治」の理論構築をめざした。

## 4. 研究成果

各年度とも情報収集・事例分析・比較分析という 3 つの方向から研究を進め、理論仮説の検討、必要な文献や資料の収集と調査、専門家との研究交流に務めた。事例としては南アジア、とくにインドを中心に国際紛争・民主主義・ナショナリズムとジェンダーの関係性について、歴史的かつ共時的な調査と分析を行った。カシミール、アフガニスタン、ネパールといった南アジアの紛争地域と 1990 年代に国際社会に新たなジェンダー分析を投げかけたボスニア紛争の事例と紛争後社会の動向を比較しつつ、分析した。2018 年 8-9 月「ボスニア・ヘルツェゴビナの紛争後社会における平和構築とジェンダー」と 2019 年 4-5 月「ジェンダーの視角からのインド総選挙の政治過程」は、中核的な現地調査であった。こうした事例分析や比較分析について、カシミール研究の永野和茂氏 (立教大学法学研究科博士後期課程) 月村太郎 (同志社大学) 田村慶子 (北九州大学) Khatharya Um (University of California, Berkeley) ほか、多くの専門家との学術交流や共同研究を実施した。

・海外の専門家との学術交流のため、立教大学などで講演会・研究会を開催した。

(1)デヴィッド・マローン (David Malone, 国連大学学長)「国連 70 周年を超えて その成否を問う(The UN in its Eighth's Decade: Boom or Bust?)」, 2017 年 6 月 8 日。

(2)スミタ・パティル (Sumita Patil, Indira Gandhi Open University, India)「現代インドの女性運動: 南アジアのコモンズを求めて(Women's Movement in Contemporary India: Seeking Commons of South Asia)」

(3)サバ・ナクヴィ (Saba Naqvi, Journalist, India)「インド人民党の取り込み インドにおける右翼勢力の確立 (BJP Incorporated: The Consolidation of The Right Wing in India)」, 2018 年 10 月 14 日。

(4)マリア・カリナ・ボラスコ (Maria Kalina Borasco, アテネオ・デ・マニラ大学・京都大学)「歴史を動かした有志の男たち: 前神父、前兵士、そして闇の王 (Willful Men Push History: The Ex-Priest, the Ex-Soldier and the Dark Lord)」, 2019 年 4 月 23 日。

(5)パメラ・フィルボーズ (Pamela Philipose, Public Editor for The Wire, India)「調和と対立の南アジア政治 (South Asia as a Site of Congruence and Conflict)」, 2019 年 11 月 28 日。

(6)ガブランカペタノウィッチ・ヤスミナ (Gavrankapetanovic Redzic Jasmina, 同志社大学・サラエボ大学)「ボスニア・ヘルツェゴビナにおける文化・記憶・アイデンティティ (Culture, Memory and Identity in Bosnia and Herzegovina)」, 2019 年 12 月 3 日。



(7)ラダ・クマール(Radha Kumar、国連大学)「ボスニア、平和構築、ジェンダー(Bosnia, Peace Building and Gender)」, 2019年12月17日。

・研究成果の発表: 日本国際政治学会ジェンダー部会、日本比較政治学会共通論題、日本平和学会分科会などで論文報告・討論を行い、専門的な意見や評価を求め、最終段階の執筆作業に反映させることができた。

・現在刊行を準備しているのは、Chiharu Takenaka and Khatharya Um eds., *Globalization and Civil Society in East Asian Space* (Routledge, forthcoming in 2021)、竹中千春『グローバル化時代の国際政治』(有志舎、2020年刊行予定)、『ジェンダーと国際政治 戦争・民主化・人権のダイナミクス』(有志舎、2021年刊行予定)である。



## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 6件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 竹中 千春	4. 巻 68
2. 論文標題 「大国インドの再興」唱えるモディ首相	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 e - World Premium	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中 千春	4. 巻 21
2. 論文標題 インド民主主義とアイデンティティ政治 国民、カースト、宗教の競合	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アイデンティティと政党政治	6. 最初と最後の頁 54-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 竹中 千春	4. 巻 65
2. 論文標題 「一帯一路」と対峙するインド 日本との協力に新たな意義	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 e - World Premium	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中 千春	4. 巻 -
2. 論文標題 旅人のナショナリズム - マハートマ・ガンディーの生涯の軌跡 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 素顔の現代インド	6. 最初と最後の頁 40-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -



1. 著者名 TAKENAKA, Chiharu	4. 巻 -
2. 論文標題 Constructing Integral Self: Gandhi, Civil Society and Japan between War and Peace	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Searching for the Human in Human-ities: Discourses on Gandhi, Non-violence and Compassion	6. 最初と最後の頁 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 竹中 千春
2. 発表標題 ジェンダーをめぐる人道的介入と平和構築の論理 - ボスニア紛争の南アジアへのインパクト -
3. 学会等名 日本国際政治学会2019年度研究大会ジェンダー分科会B-4「武力紛争後社会の変容とジェンダー」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹中千春
2. 発表標題 インド民主主義とアイデンティティ政治 国民、カースト、宗教の競合
3. 学会等名 日本比較政治学会2018年研究大会共通論題「アイデンティティと政党政治」
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 月村太郎, 大串 和雄, 竹中 千春, 窪田 幸子, 本名 純, 熊谷 智博, 上田 光明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 -
3. 書名 ボスニア紛争(仮題)	



1．著者名 竹中 千春	4．発行年 2018年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 240
3．書名 ガンディー 平和を紡ぐ人	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----